

経済経営数学I 補助資料

～線形代数の復習3～

(対角化)

2023年度1学期: 水曜1限
 担当教員: 石垣 司

対角化とは？

正方行列 A に対して、ある正則な正方行列 P を用いて、 $P^{-1}AP = D$ (D は対角行列)へ変換すること

– A : 対角化可能な行列, P : 変換行列

1. 次の A と P が与えられたとき、 $P^{-1}AP$ を求めなさい

$$A = \begin{bmatrix} 4 & -2 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}, P = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$$

2. A^6 を求めなさい

– ヒント1: $P^{-1}AP = D$ の両辺を2乗, 3乗してみよう

– ヒント2: べき乗に関する法則性を見つけ出してみよう

基底の変換

同じベクトル x の異なる基底での表現

※ 以降は 2×2 の行列を説明に用いる。標準基底に関する基底変換を考える。

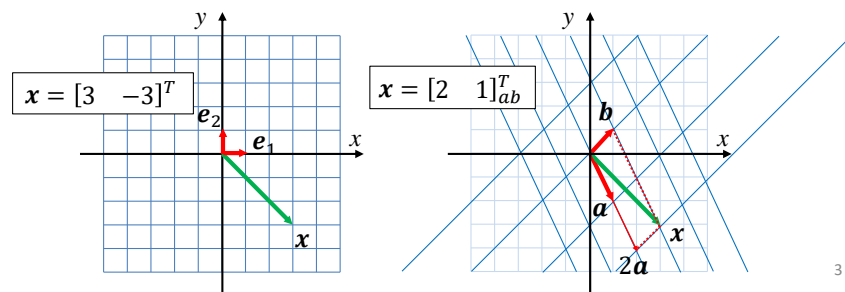
– 例: 基底 $\{a, b\}$, $a = [1 \ -2]^T$, $b = [1 \ 1]^T$

標準基底のベクトル(座標): $x = [3 \ -3]^T$

基底 $\{a, b\}$ でのベクトル(座標): $x = [2 \ 1]_{ab}^T$

– 同じベクトルでも基底毎に別の表現

$[3 \ -3]^T$ と $[2 \ 1]_{ab}^T$ の関係を線形変換で対応させる



基底の変換行列

N 次元ベクトル空間の2つの基底 $\{a_1, a_2, \dots, a_N\}$ と $\{a'_1, a'_2, \dots, a'_N\}$ が存在し、

$$[a'_1, a'_2, \dots, a'_N] = [a_1, a_2, \dots, a_N]P$$

となるとき、正方行列 P を基底 $\{a_1, a_2, \dots, a_N\}$ から基底 $\{a'_1, a'_2, \dots, a'_N\}$ への基底の変換行列とよぶ

– 例: $[e_1, e_2] = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$, $[a, b] = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix}$ ならば、標準基底 $\{e_1, e_2\}$

から基底 $\{a, b\}$ への基底の変換行列は $P = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix}$ となる。

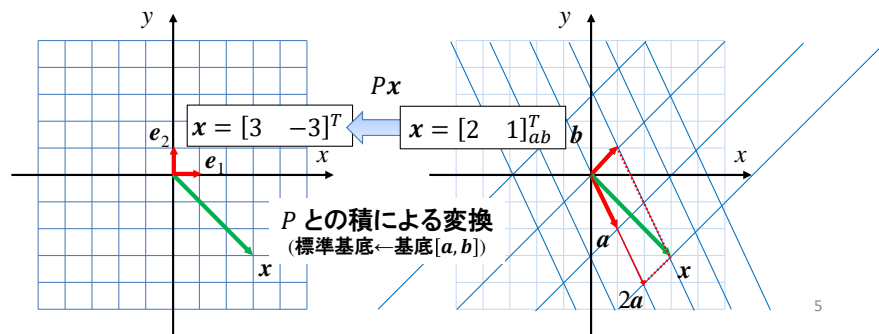
また、基底 $\{a, b\}$ から標準基底 $\{e_1, e_2\}$ への基底の変換行列は P^{-1} となる

基底の変換行列 $P \times$ ベクトル x の解釈

ベクトル x を基底 $\{a, b\}$ から標準基底での表現へ変換

- 標準基底から基底 $\{a, b\}$ への変換行列 P と x の積は、基底 $\{a, b\}$ での x の表現を標準基底での表現へ、ベクトルの長さや向きは変化させずに表現のみを変換する

- 例: $x = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}_{ab}$ のとき $Px = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}_{ab} = \begin{bmatrix} 3 \\ -3 \end{bmatrix}$

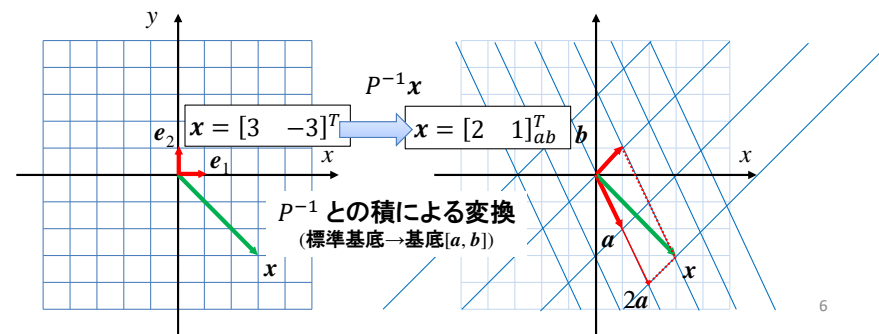


基底の変換行列 $P^{-1} \times$ ベクトル x の解釈

ベクトル x を標準基底から基底 $\{a, b\}$ での表現へ変換

- 基底 $\{a, b\}$ から標準基底への変換行列 P^{-1} と x の積は、標準基底での x の表現を基底 $\{a, b\}$ での表現へ、ベクトルの長さや向きは変化させずに表現のみを変換する

- 例: $x = \begin{bmatrix} 3 \\ -3 \end{bmatrix}$ のとき $P^{-1}x = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} 1 & -1 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 3 \\ -3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}_{ab}$



$P^{-1}AP$ の解釈

基底 $\{a, b\}$ における、標準基底での線形変換 A の表現行列

$$a = \begin{bmatrix} 1 & -2 \end{bmatrix}^T$$

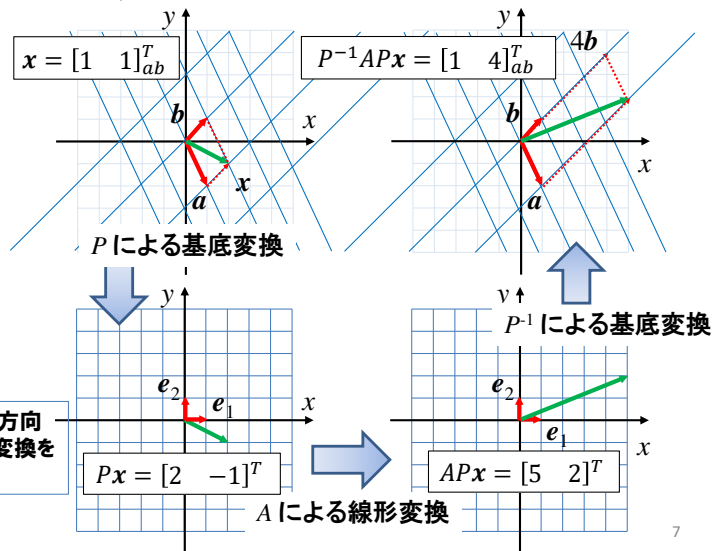
$$b = \begin{bmatrix} 1 & 1 \end{bmatrix}^T$$

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 2 \end{bmatrix}$$

$$P = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix}$$

$$P^{-1} = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} 1 & -1 \\ 2 & 1 \end{bmatrix}$$

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 4 \end{bmatrix}$$



行列 A はベクトル x を a の方向へ1倍、 b の方向へ4倍する変換を行う行列

演習問題

1. $a = \begin{bmatrix} 1 & -4 \end{bmatrix}^T, b = \begin{bmatrix} 1 & 1 \end{bmatrix}^T$ とし、基底 $\{a, b\}$ を考える。基底 $\{a, b\}$ において $x = \begin{bmatrix} 1 & 2 \end{bmatrix}^T_{ab}$ と表現されるベクトルを標準基底での表現へ変換する線形変換 P を示しなさい。
2. 標準基底における線形写像の表現行列 $A = \begin{bmatrix} 8 & 1 \\ 4 & 5 \end{bmatrix}$ を考える。問題1の P 用いて $P^{-1}AP$ を求めなさい。
3. この線形変換 A はベクトル x をどのように変換するかを説明しなさい。